

Veritas NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 3.0

NetBackup 52xx、5330

ドキュメントのリビジョン 1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ Appliance リリースノート

マニュアルバージョン: 3.0

法的通知と登録商標

Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この Veritas 製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup Appliance 3.0 の機能、拡張機能、変更	6
	NetBackup 52xx のハードウェアの機能	6
	NetBackup 5330 のハードウェアの機能	8
	NetBackup 5330 Appliance のストレージユニットについて	10
	NetBackup 5330 Appliance と NetBackup 52xx Appliance の比較	11
	NetBackup Appliance 3.0 の新機能、拡張機能、および変更について	13
	NetBackup Appliance 3.0 の新機能、拡張機能、変更	13
第 2 章	NetBackup Appliance の互換性	16
	ソフトウェアリリース形式について	16
	NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて	17
	NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知	18
第 3 章	操作上の注意	19
	NetBackup Appliance 3.0 の運用上の注意について	19
	NetBackup Appliance 3.0 の新しい運用上の注意	20
	NetBackup Appliance の一般的な注意	23
	NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意	26
	インストールと構成の注意	28
	アップグレードとロールバックの注意	29
	VMware に関する注意事項	30
	NetBackup サポートユーティリティについて	31
	NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)	31
	NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)	33
	その他の利用可能なサポートについて	33
	NetBackup Appliance のログファイルについて	33
付録 A	リリース内容	36
	現在のリリースの内容について	36
	NetBackup Appliance 3.0 の一般的なリリース内容	37
	NetBackup Appliance 3.0 のセキュリティリリース内容	37

付録 B	関連ドキュメント	41
	NetBackup Appliance のマニュアルについて	41

NetBackup Appliance 3.0 の機能、拡張機能、変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup 5330 のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup 5330 Appliance と NetBackup 52xx Appliance の比較](#)
- [NetBackup Appliance 3.0 の新機能、拡張機能、および変更について](#)
- [NetBackup Appliance 3.0 の新機能、拡張機能、変更](#)

NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの **52xx** ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは、以下のいずれかのモードで構成できます。

- アプライアンスマスターサーバー
- アプライアンスマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスメディアサーバーのみ

5240 は **52xx** の最新ハードウェアアーキテクチャです。**NetBackup 5240 Appliance** は、アプライアンスソフトウェアバージョン **2.7.3** 以降をサポートします。

NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、次のサイトに掲示される **NetBackup** ハードウェア互換性リストを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000033647>

メモ: アプライアンスソフトウェアバージョン 2.7.1 以降、「52xx」への参照から NetBackup 5200 は除外されています。このモデルは、ソフトウェアバージョン 2.6.1.2 以降をサポートせず、Linux RHEL オペレーティングシステムまたはその他の関連するアプライアンスハードウェアやソフトウェアの機能をサポートしません。

すべての 52xx Appliance アーキテクチャは、次の特徴および機能をサポートします。

- デュアルプロセッサ、クアッドコア、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネル接続。
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ
- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- RHEL オペレーティングシステム (ベリタス提供)。
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、マスターサーバーおよびメディアサーバー上のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージをサポートするMSDP は 52xx アプライアンスの利用可能な最大ストレージ容量まで提供します。

NetBackup 5220 と 5230 Appliance は、Intel X520 SR2 10 Gb イーサネットカードをシステムの標準またはオプションとして使用します。

NetBackup 5240 Appliance は、Intel X710 10Gb イーサネットカードをシステムの標準またはオプションとして使用します。

NetBackup 5240 Appliance には、構成に応じて 4 TB から 27 TB までのフォーマット済み総ストレージ容量を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 Appliance には、4 TB から 14 TB までのフォーマット済み総ストレージ容量を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 52xx Appliance には、追加ストレージとして Veritas Storage Shelf を接続できます。

表 1-1 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5240 Appliance で利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-1 NetBackup 5240 Appliance バージョン 3.0 ストレージ容量オプション

アプライアンスの利用可能ストレージ容量	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 1 つの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 2 つの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 3 つの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 4 つの利用可能ストレージ容量
4 TB	49 TB	53 TB	103 TB	152 TB	201 TB

表 1-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 Appliance で利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-2 NetBackup 5230 Appliance バージョン 3.0 ストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ容量	アプライアンスの利用可能ストレージ容量	ストレージシェルフのドライブ容量	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 1 つの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 2 つの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 3 つの利用可能ストレージ容量	アプライアンスおよびストレージシェルフ 4 つの利用可能ストレージ容量
1 TB	4.55 TB	2 TB	24 TB	28.55 TB	52.55 TB	*	*
1 TB	4.55 TB	3 TB	36 TB	40.55 TB	76.55 TB	112.55 TB	148.55 TB
3 TB	13.65 TB	2 TB	24 TB	37.65 TB	61.65 TB	*	*
3 TB	13.65 TB	3 TB	36 TB	49.65 TB	85.65 TB	121.65 TB	157.65 TB

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

両方の NetBackup Appliance のハードウェアアーキテクチャについて詳しくは、『NetBackup Appliance と Veritas Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 5330 のハードウェアの機能

このリリースは、NetBackup 5330 Appliance をサポートします。5330 は、メディアサーバーとしてのみ構成できます。

NetBackup 5330 は次の機能を提供します。

- メモリ
 NetBackup 5330 Appliance には、384 GB という大量の RAM があります。
- 速度

5330 には 3.0 GHz 10 コアのプロセッサと外部 RAID コントローラが備わっており、書き込みと読み込みの速度が向上しています。

- 耐性の高いストレージアーキテクチャ
NetBackup 5330 アプライアンスの冗長コンポーネントによって、アプライアンスはハードウェアコンポーネントにエラーが発生した場合でも生産性を維持できます。この機能によって、欠陥のある部品が交換されるまで、ユーザーの操作に対するハードウェア障害の影響を最小限に抑えることができます。
- ホットスワップ対応のコンポーネント
5330 の外部 RAID コントローラはホットスワップ対応のため、操作を中断することなく欠陥のあるコントローラを交換できます。
- 複数の冗長データパス
NetBackup 5330 は、すべての重要なストレージで冗長データパスを備えています。これによって、複数のコンポーネントエラーが発生した場合でも動作することができます。

NetBackup 5330 ハードウェアには、アプライアンスとプライマリストレージシェルフが備わっています。アプライアンスにはストレージがありませんが、プライマリストレージシェルフと最大 2 つの拡張ストレージシェルフの空き領域をバックアップのために使うことができます。プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは 3 TB または 6 TB のディスクドライブをサポートしますが、シェルフ内のすべてのドライブを同じ容量にする必要があります。次の表に、**NetBackup 5330** アプライアンスシステムで利用可能な、フォーマット済みストレージの容量を示します。

表 1-3 NetBackup 5330 Appliance バージョン 3.0 ストレージ容量オプション

NetBackup 5330 Appliance (ソフトウェアバージョン 3.0)	プライマリストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	利用可能なストレージ容量
ストレージオプション A	114 TB	-	-	114 TB
ストレージオプション B	114 TB	114 TB	-	229 TB
ストレージオプション C	114 TB	114 TB	114 TB	343 TB
ストレージオプション D	114 TB	229 TB	-	343 TB
ストレージオプション E	114 TB	114 TB	229 TB	458 TB

NetBackup 5330 Appliance (ソフトウェアバージョン 3.0)	プライマリストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	利用可能なストレージ容量
ストレージオプション F	114 TB	229 TB	229 TB	572 TB
ストレージオプション G	229 TB	-	-	229 TB
ストレージオプション H	229 TB	229 TB	-	458 TB
ストレージオプション I	229 TB	229 TB	229 TB	687 TB

両方の NetBackup Appliance のハードウェアアーキテクチャについて詳しくは、『NetBackup Appliance と Veritas Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 5330 Appliance のストレージユニットについて

NetBackup 5330 Appliance には内蔵ストレージがありません。したがって、次の外部ストレージユニットの利用が必要となります。

- プライマリストレージシェルフ
このストレージユニットには RAID が搭載されており、5330 アプライアンスのすべてのインストールに必要となります。このユニットはファイバーチャネル (FC) ケーブルでアプライアンスに直接接続されます。NetBackup 5330 システムは 1 つのプライマリストレージシェルフユニットをサポートします。
- 拡張ストレージシェルフ
このストレージユニットはオプションで、プライマリストレージシェルフのみを搭載した最小構成システムのディスク容量を増やすことを目的としています。このユニットは、SAS ケーブルで直接プライマリストレージシェルフに接続します。NetBackup 5330 システムは最大 2 つの拡張ストレージシェルフユニットをサポートします。

メモ: プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは、NetBackup 52xx アプライアンスと互換性がありません。Veritas Storage Shelf は NetBackup 5330 または関連付けられたストレージシェルフのいずれとも互換性がありません。

NetBackup Appliance Web Console から NetBackup 5330 の初期構成を開始すると、[ストレージの概要 (Storage Overview)] ページが表示されます。このページによって、システムのハードウェア構成が示され、接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題が特定されます。初期構成に進む前に、特定されたすべての問題を修正することをお勧めします。

NetBackup Appliance Shell Menuから初期構成を実行する場合、Test hardware コマンドを手動で実行して接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題を特定できます。

詳しくは『NetBackup Appliance Initial Configuration Guide』を参照してください。

NetBackup 5330 Appliance と NetBackup 52xx Appliance の比較

表 1-4 に、NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5240 Appliance、NetBackup 5230 Appliance 間の違いの概要を示します。

表 1-4 NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5240 Appliance、NetBackup 5230 Appliance の比較

パラメータ	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
ロール	メディアサーバーのみ	マスターサーバーまたはメディアサーバー	マスターサーバーまたはメディアサーバー
コア	20	16	12
キャッシュ	50 MB	40 MB(20 MB/CPU)	30 MB
RAID キャッシュ	24 GB	1 GB	1 GB
CPU 速度	3.0 GHz	2.4 GHz	2.0 GHz
ターボ速度	3.6 GHz	3.2 GHz	2.5 GHz
QPI 速度	8 GT/秒	8 GT/秒	7.2 GT/秒
システムメモリ (GB)	384 GB	64 GB メモ: 最初のストレージシェルフを購入すると、ストレージシェルフに同梱されるストレージ拡張には、追加の 64 GB メモリが含まれています。 最初のストレージシェルフとメモリを追加した後、追加の 64 GB メモリキットを購入して、アプライアンスのメモリを最大 192 GB まで増やすことができます。	128 GB (拡張ストレージ付き)

パラメータ	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
メモリ構成 (DIMM)	16 GB x 24	8 GB x 8	8 GB x 16 (拡張ストレージ付き)
データ保持	RAID コントローラごとの 1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニットから NVRAM (システムにつき 2 個)	1 つの内部 RAID コントローラ用フラッシュメモリカード搭載 MFBU 最初のストレージシェルフ購入時に、1 つの外部 RAID コントローラ用フラッシュメモリカード搭載 MFBU	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 1 つのメンテナンスフリーバックアップユニット (MFBU) 2 番目の MFBU は拡張ストレージとともに追加されます
PCI アドインカードスロット	6	6	6
オンボード 10 GB イーサネットポート	2	2	2
PCI アセンブリへの追加 10 GB イーサネットカード	最大 4 枚のカード (8 個のポート)	最大 3 枚のカード (6 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個のポート)
PCI アセンブリへの追加 1 GB イーサネットカード	不可	最大 1 枚のカード (4 個のポート)	不可
PCI アセンブリの SAS RAID カード	不可	可(最初のストレージシェルフの購入に付属)	可(拡張ストレージ付き)
デュアル冗長外部ストレージベースの RAID コントローラ	可	不可	不可
外部ストレージ	1 つのプライマリストレージシェルフと 2 つまでのオプションの拡張ストレージシェルフ	最大 4 つの NetBackup 5240 ストレージシェルフ	最大 4 つの Veritas ストレージシェルフ
外部ストレージを含む最大ストレージ容量	687 TB	201 TB	157TB
最大の外部ストレージでの標準の消費電力	2442W (10.7W/TB)	1140 W (5.6 W/TB)	1500 W (9.5 W/TB)

NetBackup Appliance 3.0 の新機能、拡張機能、および変更について

多くの新機能に加え、このリリースでは、NetBackup Appliance の以前のリリースからの問題点や改善点に対する多くの拡張機能を提供します。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更に関する情報については、この章の以下のセクションを参照してください。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。これらの問題の多くは、テクニカルサポートケースの形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリオおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup Appliance ソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースに含まれているエンジニアリングバイナリオおよびエンジニアリングバンドルのリストは、このドキュメントの付録「リリース内容」にあります。

NetBackup ソフトウェアバージョン 8.0 は NetBackup Appliance 3.0 のリリースに付属しています。NetBackup 8.0 の新しい機能、拡張および修正については、ベリタスのサポート Web サイトの文書『NetBackup 8.0 リリースノート』に記載しています。

NetBackup Appliance 3.0 の新機能、拡張機能、変更

次のリストに、NetBackup Appliance 3.0 リリースの新機能、拡張機能、変更を示します。

- NetBackup 5240 アプライアンスの構成 H では、iSCSI 接続がサポートされます。詳しくは、『NetBackup Appliance iSCSI ガイド』を参照してください。
- ソフトウェアバージョン 3.0 からは、52xx と 5330 アプライアンスの DIMM (dual in-line memory module) を監視できます。NetBackup アプライアンスのシェルメニューから Monitor > Hardware ShowHealth Appliance DIMM コマンドを実行することで、DIMM を監視できます。詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。
- 最適化された共有は全データベースサイズに対応しますが、追加のストレージ容量や、より大きなデータベースワークロードをサポートするディスクレイアウトを活用することで、より大きなデータベースを保護するように機能拡張されています。必要なストレージ容量を利用できる場合は、バックアップを作成する Oracle データベースごと

に最適化された共有を作成します。ストレージ要件を満たさない場合は、拡張ストレージシェルフを 5330 アプライアンス構成に追加することを検討してください。

- ソフトウェアバージョン 3.0 からは、アプライアンスで 証明書 の生成と展開 (CGD) 機能が有効になります。NetBackup アプライアンスは、アプライアンスの役割の構成時に NetBackup ホストの新しいセキュリティ証明書を生成、展開します。詳しくは、『NetBackup セキュリティと暗号化ガイド』を参照してください。
- ソフトウェアバージョン 3.0 からは、LDAP サーバーの構成時にディレクトリタイプを指定できます。次のいずれかの方法を使用して、ディレクトリタイプを選択します。
 - NetBackup アプライアンス Web コンソールで[設定 (Settings)]>[認証 (Authentication)]>[LDAP サーバー構成 (LDAP Server Configuration)] ページから選択する。
 - NetBackup アプライアンスのシェルメニューで、Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > ConfigParam コマンドを使用して選択する。
- ログ転送機能を使用すると、外部ログ管理サーバーにアプライアンスのログを送信できます。この機能は、セキュリティを高めて、HIPPA、SOX、PCI などの一般的なコンプライアンスイニシアチブを実現する場合に使用します。Appliance バージョン 3.0 は syslog の転送をサポートします。syslog は OS のシステムログで、ユーザーとシステムレベルの活動がイベントの形式で含まれています。詳しくは、次のマニュアルを参照してください。
NetBackup Appliance 管理者ガイド
NetBackup Appliance セキュリティガイド
NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド
- ソフトウェアバージョン 3.0 からは、NetBackup ソフトウェアがアプライアンスと同じ Java Runtime Environment (JRE) を使用します。
- NetBackup 5230 アプライアンスは新しい Veritas 2U12 49TB ストレージシェルフをサポートするようになりました。詳しくは、『NetBackup™ 5230 アプライアンスとストレージシェルフ製品解説 - リリース 3.0』を参照してください。
- NetBackup 5240 アプライアンスは、次をサポートするようになりました。
 - 最大 192 GB のメモリ
 - 新たな 4 つの PCIe ベースの I/O 構成オプション (構成 H、J、K、L) 詳しくは、『NetBackup™ 5240 Appliance とストレージシェルフ製品解説 - リリース 3.0』を参照してください。
- NetBackup 5330 Appliance は空きストレージ容量を 687 TB までサポートするようになりました。詳しくは、『NetBackup™ 5330 Appliance とストレージシェルフ製品解説 - リリース 3.0』を参照してください。

- ソフトウェアバージョン 3.0 からは、NetBackup アプライアンス Web コンソールから 5330 計算ノードでディスクのビーコンを点灯できます。詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「ビーコンの点灯」セクションを参照してください。
- Web コンソールで[監視 (Monitor)]>[ハードウェア (Hardware)]>[CPU] をクリックすると、[CPU] テーブルに [プロセッサ (Processor)] という新しい列が表示されます。シェルメニューから Monitor > Hardware ShowHealth Appliance CPU コマンドを実行すると、[プロセッサ (Processor)]列は[CPU 情報 (CPU information)] テーブルにも表示されます。[プロセッサ (Processor)]列には、プロセッサの詳細情報 (製造元、モデル、速度など) が表示されます。
- ソフトウェアバージョン 3.0 からは、アプライアンスの登録が [マイアプライアンスポータル](#) に一元化されました。このポータルでは、アプライアンスの健全性状態、パフォーマンスなどの情報に総合的にアクセスできます。アプライアンスの詳しい登録情報については、NetBackup Appliance Shell Menu と NetBackup Appliance Web Console で表示できます。ただしアプライアンスの登録と登録情報の編集を行うには、ポータルにアクセスする必要があります。

NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [ソフトウェアリリース形式について](#)
- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

ソフトウェアリリース形式について

さまざまなレベルの **NetBackup** リリースを利用できるようにすることで、ベリタスはお客様のニーズに対応するというポリシーを順守しています。次のリストで、さまざまなリリース形式と、それに対応するバージョン番号付与の仕組みについて示します。**NetBackup Appliance** 製品ではこれらのリリース形式と番号付与の仕組みを使います。

- メジャーリリースは、一連のリリースのうち最初のリリースです。この形式のリリースには、多くの新機能や拡張機能が含まれます。
- マイナーリリースは、メジャーリリース番号の後にドットを付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6** のようになります。このリリース形式の要件は、メジャーリリースとほぼ同じです。メジャーリリースよりも小規模な新機能や拡張機能が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **2** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1** のようになります。このリリース形式では、いくつかの新機能や拡張機能、および多くの製品の修正が含まれています。
- メンテナンスリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **3** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1.2** のようになります。このリリース形式は主に、メジャー、マイナー、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発された修正から構成されています。このリリース形式には、いくつかの新機能や拡張機能も含まれます。

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることを推奨します。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.6.1 より前の場合は、バージョン 2.7.x または 3.0 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.6.1.x にアップグレードする必要があります。このアップグレードシナリオでは、2.6.1.2 にアップグレードしてから 2.7.x または 3.0 にアップグレードすることを強く推奨します。

システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することを推奨します。

以下に、アプライアンスソフトウェアのアップグレードをどのように計画して実行する必要があるのかについて説明します。

- 常にシステムの動作状態が最も低いときにアップグレードをスケジュール設定します。アップグレードを開始する前にすべてのバックアップとリストア操作を中断することを推奨します。
- ソフトウェアの更新を始める前に、接続が切断されないようにするための対策を採ることを推奨します。アプライアンスのアップグレードに使用するコンピュータは、スリープ、シャットダウン、電源の遮断の動作をしないように設定してください。そうしないと、ネットワーク接続が失われます。インストール中に接続が失われると、操作は失敗する場合があります。
- アプライアンスマスターサーバーは常に、一緒に使われるあらゆるアプライアンスメディアサーバーと同じかそれ以降のバージョンである必要があります。この規則の唯一の例外は、Veritas がメジャー、マイナー、ソフトウェア更新のあらゆるリリースに対してメンテナンスリリースを提供している場合です。メンテナンスリリースのバージョン番号は 4 つの数字 (2.x.x.x) で識別されます。
- アプライアンスをアップグレードするときは、アプライアンスで利用可能なソフトウェアの更新のみを使う必要があります。アプライアンスソフトウェアの更新は、アプライアンス、NetBackup、オペレーティングシステムのコンポーネントの更新から成っている完全なパッケージです。ベリタスは、いずれかのコンポーネントに対する個別のアプライアンスアップグレードはサポートしません。
- アプライアンスマスターサーバーは、必ずアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする前にアップグレードする必要があります。

- NetBackup Appliance 2.5.x からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- NetBackup Appliance バージョン 3.0 のアップグレードには、構成ボリュームに少なくとも 100 GB が必要です。アップグレードを開始する前に、パーティションをリサイズしてください。詳しくは、『NetBackup アプライアンスアップグレードガイド』を参照してください。
- 2.5.x から 2.6 製品ラインへのアップグレードを完了するにはおよそ 3 時間かかりますが、環境によってはそれ以上かかることがあります。その間にアプライアンスが数回再起動することがあります。これは正常な動作です。
- アップグレードを開始したら、完了するまで実行する必要があります。

メモ: アップグレードを中止しないことを推奨します。中止した場合、予想外のシステム動作を経験することがあります。たとえば、サービスの再起動中にアップグレードが中止されると、すぐにバックアップが失敗することがあります。この動作が予想どおりですが、システムの他の部分が影響される可能性もあります。

NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、ベリタスが帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフトウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

操作上の注意

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 3.0 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance 3.0 の新しい運用上の注意](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [アップグレードとロールバックの注意](#)
- [VMware に関する注意事項](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [NetBackup Appliance のログファイルについて](#)

NetBackup Appliance 3.0 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 3.0 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はベリタスのサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup Appliance 3.0 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

NetBackup Appliance 3.0 では NetBackup 8.0 ソフトウェアがインストールされるため、NetBackup 8.0 に適用される運用上の注意は、NetBackup Appliance 3.0 にも当てはまります。NetBackup の運用上の注意については、ベリタスのサポート Web サイトの『[NetBackup 8.0 リリースノート](#)』を参照してください。

NetBackup Appliance 3.0 の新しい運用上の注意

メモ: 以前のリリースの操作上の注意に詳しい方は、このセクションのこのリリースに関する新しい内容のみを確認してください。このドキュメントの付録「リリース内容」で、このリリースで解決された問題を確認してください。

メモ: このセクションに記載されている注意事項および既知の問題は以前のリリースにも該当することがあります。

次のリストに、このリリースで新たにドキュメントに追加された注意事項と既知の問題を示します。

- Monitor > SDCS > Audit View EventType `<code>` コマンドは、次のイベントタイプのコードを受け入れないため、NetBackup Appliance シェルメニューから関連する SDCS ログを監査できません。ただし、NetBackup Appliance Web Console から[監視 (Monitor)]>[SDCS イベント (SDCS Events)]ページに移動して、ログを監査することができます。

PBOP IPS Overflow

PCRE IPS Create

PDES IPS Destroy

PFIL IPS File

PMNT IPS Mount

PNET IPS Network

POSC IPS System Call

PPST IPS PSET

PREG IPS Registry

- iSCSI は IPv4 アドレスのみをサポートします。IPv6 を介した iSCSI 接続はサポートされません。さらに、イニシエータとターゲットは同じレイヤ 2 (L2) ネットワーク上にある必要があります。
- 10 Gb イーサネット/iSCSI カードでは、QLogic Small Form-Factor Pluggable (SFP+) モジュールのみがサポートされます。これは NetBackup 5240 Appliance の構成 H に適用されます。

- **VLAN** は、ネットワークインターフェースまたは **iSCSI** インターフェースのいずれかで構成できます。**VLAN** をネットワークと **iSCSI** インターフェースの両方で構成すると、ネットワークインターフェースの **VLAN** が両方のインターフェースで有効になります。**VLAN** が異なるサブネットでネットワークと **iSCSI** インターフェースの両方で構成されている場合、その構成はサポートされないことに注意してください。

ネットワークインターフェース (Network Interface)		iSCSI インターフェース (iSCSI Interface)		説明
IP	VLAN	IP	VLAN	
サブネット X	なし	サブネット X	なし	サポート
サブネット X	なし	サブネット Y	VLAN A	サポート
サブネット X	VLAN B	サブネット X	VLAN B	サポート
サブネット X	VLAN B	サブネット Y	VLAN B	サポートしていません

- ターゲットへの接続後に `iSCSI > Target Discover Portal` または `iSCSI > Target Discover iSNS` コマンドを再実行する場合は、ターゲットの資格情報などの既存の設定が上書きされます。ターゲットに認証が必要な場合は、既存のセッションが再接続されたときターゲットの資格情報を再入力する必要があります。アプライアンスを再起動する場合、アプライアンスの **IQN** を変更する場合、**iSCSI** プロセスを再起動する場合などは、既存のセッションを再接続する必要があります。
- `iSCSI > Target Discover iSNS` コマンドを最初に **iscsi1** に実行し、次に **iscsi2** に実行するなど、**iSNS** を使って 2 つの **iSCSI** インターフェースでターゲットを検出すると、`iSCSI > Target Show All` コマンドは直近のレコードのみを表示します。たとえば、一部のターゲットに対しては、`Target Show All` コマンドの [インターフェース (Interfaces)] 列に両方のインターフェース (**iscsi1**、**iscsi2**) が表示されないことがあります。一部のターゲットに対しては、直近のコマンドからのインターフェースのみが表示されます (この場合は **iscsi2**)。
- **iSCSI** インターフェース上でワークロードが稼働中の場合、`iSCSI > Target Disconnect` コマンドの完了までの時間が長くなります。
NetBackup Appliance シェルメニューには次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
Message from syslogd@host at Sep 12 10:09:14 ...
iscsid:
Message from syslogd@host at Sep 12 10:13:27 ...
iscsid:
```

Message from syslogd@host at Sep 12 10:17:53 ...
 iscsid:

これらのメッセージは、NetBackup Appliance シェルメニューに異なるタイミングで表示される場合があります。これらは、iSCSI コマンドを実行しているとき、コマンド出力の途中、またはコンソールがアイドル状態のときにも表示されます。これらのメッセージは無害で無視できます。

- ターゲットデバイスで CHAP 認証を有効にして、iSNS を使用してターゲットを検出するとき、iSCSI > Target Discover コマンドを使用してもターゲットの資格情報の入力が求められない場合もあります。
- インベントリ収集時、アプライアンスコンポーネントを監視する Intel 社のハードウェアプロセスが失敗する場合があります。インベントリは 24 時間ごとに収集されます。インベントリが失敗した場合、NetBackup Appliance Shell Menu に表示される DIMM タイプのコンポーネント情報は不正です。たとえば、Monitor > Hardware ShowHealth Appliance または Monitor > Hardware ShowHealth Appliance DIMM コマンドは、次の DIMM コンポーネント状態を示します。

```
Time Monitoring Ran: Wed Nov 16 2016 17:20:01 PST
-----
DIMM Information Error: No DIMM(s) Detected.
-----
| ID | Name | Status | Manufacturer | Part Number | Serial Number | Type | Size | Speed | Uncorrectable Error Count | State |
| 1 | - | Not Found | - | - | - | - | - | - | - | Failed |
-----
```

この状態は、24 時間後に次のインベントリ収集が行われるまで存在します。インベントリが失敗するたびに、/log/crash/ に core.intelHw.<PID> というファイル名のコアファイルが生成されます。ここで、PID は失敗したプロセスのプロセス識別子です。

この問題が発生したときに生成される SNMP アラートは、次のインベントリまで失われます。この問題は電子メールアラートには影響しません。

この問題は断続的に発生し、まったく生じない場合もあります。

この問題を回避するために、as-collector サービスを【サポート (Support)】メニューから再起動してインベントリの収集を手動で開始することができます。このサービスを再起動するには、次のコマンドを入力します。

```
Support > Service Restart as-collector
```

インベントリ収集が完了したら、シェルメニューが正しい DIMM 状態を表示します。インベントリ収集が完了するには、通常、約 1 分から 5 分かかります。ただし、一部のシステムでは、最大 1 時間かかる可能性があります。

- システムの起動中、一部の VCS 関連のエラーが発生し、LOGROOT/>OS>messages のログファイルに保存される場合があります。Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用すると、ログファイルを確認することができます。VCS ERROR で始まる

メッセージはアプライアンスソフトウェアバージョン **3.0** には関係がないため、安全に無視することができます。以下は、ログファイルに表示される可能性のあるメッセージの例です。

```
VCS ERROR V-16-1-11032 Registration failed.
```

- Manage > Storage > Show コマンドを実行すると、共有の使用率の列に不正な値が表示されます。
- **3.0** アップグレードをインストールすると、**5330** アプライアンスで **Create Share** 操作が失敗する場合があります。シェルフからディスクへのマッピングに対して適切なファイルは、アップグレード中に作成されません。このエラーを防ぐには、最適化された共有の予約と最適化された共有を作成する前に、Manage > Storage > Scan コマンドを実行します。
- **NetBackup Appliance Web Console** の [バージョン情報 (About)] ページの著作権記号が読取不能の文字として表示される可能性があります。このページでの表明は、次のように表示されるべきです。
Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.
- アプライアンスで **AdvancedDisk** パーティションをリサイズする場合、**NetBackup** ディスクプールに新しい領域が追加されないというシナリオが発生する場合があります。次のような警告が表示されます。

```
Use of uninitialized value $newMountPoints[0] in join or string  
at /opt/NBUAppliance/scripts/nbapp_nbstorage.pm line 1752
```

このシナリオでは、Main > Manage > Storage > Show コマンドで新しいパーティションサイズが表示されますが、**NetBackup** のディスクプールは表示されません。この問題が発生する場合、**NetBackup** が正しい情報を確実に受け取るように、同じパラメータセットを使って改めてリサイズ操作を実行します。

NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、**NetBackup Appliance** の一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- このリリースでは、構成内の **Veritas Storage Shelf** の電源がオフになっているか、電源が喪失すると、ハードウェアの監視インターフェースに正しい情報が反映されない可能性があります。この問題が発生した場合は、**NetBackup Appliance Web Console** の [監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページと **NetBackup Appliance Shell Menu** の Monitor > Hardware コマンドで存在しているストレージシェルフを表示します。表示される状態は、ストレージの電源がオフになるか、電源が喪失する前の最後の状態です。
 この場合に送信される唯一のハードウェア警告はパーティションの状態に関する警告です。UMI コード **V-475-103-1002** または **V-475-103-1003** のパーティションに関

するハードウェア警告が表示された場合、ストレージシェルフの電源がオンになっていることを物理的に確認してください。もう一度ストレージシェルフの電源をオンにすると、**Web** コンソールとシェルメニューに最新の監視情報が表示されます。構成およびハードウェアの監視からストレージシェルフを除外する必要がある場合は、ベリタスのサポートに問い合わせてください。

- **52xx** アプライアンスを再起動した場合、またはメインボードの **RAID** コントローラをリセットした場合に、**NetBackup Appliance Web** コンソールの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]タブに、ストレージシェルフに対して異なる値のエンクロージャ ID が表示されることがあります。同様に、**52xx** アプライアンスを再起動した後、またはメインボードの **RAID** コントローラをリセットした後に、**NetBackup Appliance** シェルメニューで Monitor > Hardware ShowHealth StorageShelf コマンドを実行した場合にも、異なる値のエンクロージャ ID が表示されることがあります。この場合、同じエンクロージャ (ストレージシェルフ) に対して複数のエンクロージャ ID が表示されます。

バージョン **2.7.1** または **2.7.2** を使っている場合に、この問題を解決するには、テクニカルサポートに問い合わせてください。

バージョン **2.7.3** を使っている場合に、この問題を解決するには、**NetBackup Appliance** シェルメニューにログオンして、次のコマンドを実行します: Main > Support > Cleanup > RemoveShelfEntries

コマンドについて詳しくは、『**NetBackup Appliance** コマンドリファレンスガイド』の「Support > Cleanup > RemoveShelfEntries」のセクションを参照してください。

- **52xx** ストレージシェルフが **NetBackup Appliance Web** コンソールまたは **NetBackup Appliance** シェルメニューに表示される順序は、それぞれの環境の実際の順序およびレイアウトと異なることがあります。ストレージシェルフの順序は、左ペインの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]タブに、[**NetBackup StorageShelf 1**]、[**NetBackup StorageShelf2**] のように表示されます。同様に、ストレージシェルフの順序は、Monitor > Hardware > ShowHealth コマンドを実行すると **NetBackup Appliance** シェルメニューに表示されます。
- メインボードの **RAID** コントローラを **52xx** アプライアンスから取り外した場合に [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]、[アダプタ (Adapter)]タブをクリックするか、または Monitor> Hardware ShowHealth Appliance Adapter コマンドを実行すると、**NetBackup Appliance Web** コンソールまたは **NetBackup Appliance** シェルメニューに古いデータが表示されることがあります。
- **5240** アプライアンスの **RAID 1** ボリュームにディスクが見つからず、Monitor > Hardware ShowHealth Appliance RAID コマンドを実行する場合、見つからないディスクの場所が誤ってスロット **0** と表示されます。
5240 アプライアンスで[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] > [RAID] に移動するときに **NetBackup Appliance Web** コンソールで同じ動作が観察されます。この問題は、**5240** アプライアンスに当てはまり、アプライアンスの **RAID 1** ボリューム上のディスクが見つからない場合に観察されます。

- ベリタスストレージシェルフを **NetBackup 52xx Appliance** に接続した場合、ストレージシェルフをオンにすると、ストレージシェルフの各ストレージディスクごとに **AutoSupport 警告 (UMI コード V-475-100-1004)** が生成されます。次のメッセージが表示されます。
 「外部構成をインポートするか、ディスクを消去することができます。」
 これらの警告は無視しても問題ありません。
 初期構成中にストレージシェルフを接続した場合、初期構成が完了すると警告は消えます。
 初期構成後にストレージシェルフを接続した場合、インストール手順の中でストレージスキャンを実行すると警告は消えます。 **NetBackup Appliance Web** コンソールと **NetBackup Appliance** のシェルメニューは、インストールの完了後、約 5 分間、ストレージシェルフの誤ったデータを表示することがあります。
 ストレージシェルフのインストールの詳細については、『**NetBackup Appliance** ハードウェア取り付けガイド』を参照してください。
- **Copilot** 機能は、**NetBackup Appliance Shell Menu**に限定されています。現在、**NetBackup Appliance Web Console**機能はありません。
- アプライアンスのソフトウェアバージョンをアップグレードした後に、アプライアンスのログインバナーが維持されません。この問題を回避するには、アップグレードの前に `LoginBanner Show` コマンドを実行し、ログインバナーのテキストをコピーします。アップグレード後に、`LoginBanner Set` コマンドを実行し、コピーしたテキストを使って同じログインバナーを設定します。
- ログインバナーの見出しまたはログインバナーのメッセージの 1 行に `ERROR:` というテキストのみが含まれる場合は、アプライアンスのセルフテストが失敗します。
- 複数のセッションからのアプライアンスのユーザーを同時に作成すると、ユーザー作成が失敗することがあります。この問題が起きた場合は、失敗したユーザーのすべてについてユーザー作成を再試行します。
- **NetBackup 5330 Appliance** では、**LUN** オーナーシップを 1 つのコントローラから別のコントローラにフェールオーバーするときに優先バリエーションが起きる場合があります。1 つのコントローラが他のコントローラをリセットして、それが原因で優先バリエーションが起きる場合があります。このエラーが起きると、アプライアンスハードウェア監視の [ストレージステータス (**Storage Status**)] に [最適でない (**Not Optimal**)] と表示されます。このエラーは解消されるまでに数週間続く場合があります。
 このエラーが解消されない場合は、すべてのパスがエラーになり、影響を受けるコントローラがオフラインになり、その結果、冗長性とパフォーマンスが低下します。この問題が起きた場合は、ベリタスのサポートに連絡して、担当者に **TECH225558** を参照するように伝えてください。
- **Windows 7/8.1** クライアントはアプライアンスの **CIFS** 共有に自動的にアクセスできません。この問題を回避するには、クライアントの **Windows** コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

net use /user:admin ¥¥*appliance-name* *. **appliance-name** はアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

メッセージが表示されたら、プロンプトでアプライアンス管理者のパスワードを入力します。

このコマンドを実行すると、クライアントは CIFS 共有にアクセスできます。

- **ManageEngine** または **Wireshark** のようなネットワークプロトコルアナライザを使い、アプライアンスに **SNMP** を構成している場合は、アプライアンスの **SNMP** トラップの [経過時間 (TimeTicks)] フィールドは正しくなりません。
- **NetBackup Appliance** のこのリリースでは、アプライアンスをバックアップホストまたはリカバリホストとして使った場合は、レプリケーションディレクタ (RD) リストアで動的マルチパス (DMP) がサポートされません。
- 出荷時の設定へのリセットで、no を RESET STORAGE CONFIGURATION and BACKUP DATA [Optional] の質問で選択すると、ストレージ関連の構成を保持すると指定したことになります。出荷時の設定へのリセット後、最初の役割の構成で **Advanced Disk** と **MSDP** のサイズを 0 に指定しないようにする必要があります。指定した場合、役割の構成は失敗します。

メモ: 出荷時の設定へのリセット前に、**Advanced Disk** と **MSDP** のサイズがすでに 0 に指定されている場合は 0 を指定しても問題ありません。

- バージョン 2.6.1 より、出荷時の設定にリセットする際にネットワークとストレージ構成設定の維持を選択すると、"ボリュームをロールバックできません (Cannot rollback volume)" というエラーメッセージが表示されます。このメッセージは、出荷時の設定へのリセットの処理中にアプライアンスのネットワーク構成を保存できなかったことを示します。出荷時の設定へのリセット正常に完了しましたが、ネットワークパラメータを再構成する必要があります。
詳しくは、Veritas のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。
www.veritas.com/docs/000108199

NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、NetBackup Appliance Web Console と NetBackup Appliance Shell Menu に関する注意事項および既知の問題を示します。

- 画面解像度を 1280 x 1024 以上に拡張したときに、フォントサイズを 11 ポイントより大きく設定すると、コマンドラインインターフェースが適切に表示されない場合があります。この状況を回避するためには、高い画面解像度に変更した場合でも、コマンド

ラインインターフェースのデフォルトのフォントサイズを変更しないようにする必要があります。

- **NetBackup Appliance Web Console**のホームページにハードウェアエラーが表示されていても、**[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)]**ページにエラーが表示されていない場合、**NetBackup Appliance Shell Menu**で現在の状態を確認してください。**[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)]**ページにシェルメニューで利用できる情報の一部が含まれない場合があります。
- アプライアンスに**NetBackup**クライアントのアドオンパッケージをインストールすると、**NetBackup Appliance**の**Web**コンソールには不正な**[アップグレード後のバージョン (Version after upgrade)]**が表示されます。クライアントパッケージのインストールはアプライアンスのソフトウェアバージョンに影響しません。ただし、**Web**コンソールは**NetBackup**バージョンをアップグレード後のバージョンで表示します。
- **NetBackup Appliance Web**コンソールの**[監視 (Monitor)] > [SCSP イベント (SCSP Events)]**ページにはユーザーセッションは正しく記録されません。ユーザーセッションのログインはページに記録されますが、ログアウトの情報は記録されません。
- 次のシナリオにあるように、**Active Directory (AD)** ユーザー名の機能に一貫がありません。
 - **NetBackup Appliance Web Console**および**NetBackup Appliance Shell Menu**
これらのインターフェースは、**Active Directory (AD)**のユーザー名の**大文字**と**小文字**を区別しません。
 - **NetBackup Java** コンソール
このインターフェースは、**Active Directory (AD)**のユーザー名の**大文字**と**小文字**を区別します。すべて小文字でユーザー名を入力した場合、**NetBackup**管理者のコンソールへのアクセスが許可されます。すべて大文字でユーザー名を入力した場合、**NetBackup**のバックアップ、アーカイブ、復元インターフェースへのアクセスが許可されます。
- **NetBackup Appliance**のシェルメニューの**Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name**コマンドでは、証明書のパス名がハイフンを含んでいる場合は受け入れられません。ハイフンが含まれるパス名は、**NetBackup Appliance Web**コンソールで受け入れられます。
- **NetBackup Appliance Web**コンソールの**[設定 (Settings)] > [通知 (Notification)] > [登録 (Registration)]**ページから担当者の電子メールアドレスを複数追加することができません。ただし、**NetBackup Appliance**のシェルメニューからは、担当者の電子メールアドレスを複数追加できます。シェルメニューから複数の電子メールアドレスを追加するには、**Settings > Alerts > CallHome Registration Email**コマンドを実行し、複数の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、**NetBackup Appliance Web**コンソールランディングページに次の通知が表示されます。

「コールホームサービスが機能していません。コールホームサーバーでシステムがプロビジョニングされたかどうか確認するには、Veritas のサポートにご連絡ください。」ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合は、ランディングページには日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。

- Veritas Remote Manager からアラートの構成はサポートされません。アラートの構成は、NetBackup Appliance Web Console の [設定 (Settings)] > [通知 (Notifications)] > [アラートの構成 (Alert configuration)] メニュー、または NetBackup Appliance Shell Menu の Settings > Alerts コマンドビューからサポートされます。詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』の [設定 (Settings)] > [通知 (Notifications)] > [アラートの構成 (Alert configuration)] セクション、または『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』の Main > Settings > Alerts ビューコマンドのセクションを参照してください。

インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- 初期構成中、[ホストの構成 (Host Configuration)] ページでホスト名を入力するか、NetBackup Appliance のシェルメニューで Hostname Set コマンドを実行すると、次のエラーが表示される場合があります。
[エラー]V-409-930-001: ホスト名「sample.domain.com」を設定できません。ホスト名は解決できませんでした。有効なホスト名でホスト名を再度設定してください。
このエラーを解消するには、省略名と FQDN の両方で IP アドレスに解決されていることを確認する必要があります。たとえば、sample.domain.com と入力して sample が省略名の場合、sample と sample.domain.com の両方が IP アドレスに解決されていることを確認する必要があります。
- NetBackup 5330 Appliance にプライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフが含まれ、拡張シェルフに RAID ボリュームが設定されている場合は、アプライアンスのセットアップから拡張ストレージシェルフを削除しないでください。拡張シェルフを削除すると、プライマリシェルフは拡張シェルフが電源オフになったかのように動作し、エラーが発生します。拡張シェルフを削除する必要がある場合は、セットアップから拡張シェルフを削除する前に [サポート (Support)]、[RAID 解除 (RAID Clear)] コマンドを実行する必要があります。

警告: [サポート (Support)]、[RAID 解除 (RAID Clear)] コマンドにより、両方のストレージシェルフからすべてのデータが削除されます。このコマンドを実行する前に、必ず他の場所にデータを保存してください。

- 以前に使ったアプライアンスに **NetBackup Appliance** の新しいバージョンをインストールすると、アプライアンスの構成中に次のエラーメッセージを受信することがあります。

```
Cannot recover the existing MSDP partition because the NetBackup  
disk pool and storage unit could not be determined. ...  
- [Error] Could not configure the appliance.
```

このエラーは、既存のメディアサーバー重複排除プール(MSDP)のディスクプール名に+が含まれている場合に起きます。この問題が起きた場合は、ディスクプール名に+が含まれないようにディスクプール名を変更し、手動でMSDPパーティションを構成する必要があります。Manage > Storage > Resize コマンドを使ってパーティションを構成します。

- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合は、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。このような問題が起らないよう、コピー処理が完了するまでは他のコマンドを実行しないでください。
- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合は、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、**NetBackup Appliance Web** コンソールの[管理 (Manage)]>[ライセンス (License)]ページまたは **NetBackup Appliance** のシェルメニューの Main > Manage > License > List コマンドで確認できます。

アップグレードとロールバックの注意

次のリストに、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題を示します。

- 3.0 へのアップグレード中、チェックポイントが作成された直後にキャンセルされた複製操作が再開された場合、アップグレードは失敗し、システムは自動的にロールバックされます。ロールバック後は、メディアサーバーがアクティブではなくなるため、バックアップは機能しません。この問題を解消するためには、次の手順でメディアサーバーを手動でアクティブ化します。
 - **NetBackup** の管理コンソールに管理者としてログオンします。
 - 左のパネルで、[メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]>[デバイス (Devices)]>[メディアサーバー (Media Servers)]に移動します。

- 右のパネルで対象のメディアサーバーを右クリックし、ショートカットメニューから [アクティブ化する (activate)] を選択します。

メモ: この問題を回避するためには、サーバーをアップグレードする前にすべてのバックアップジョブが停止していることを確認する必要があります。

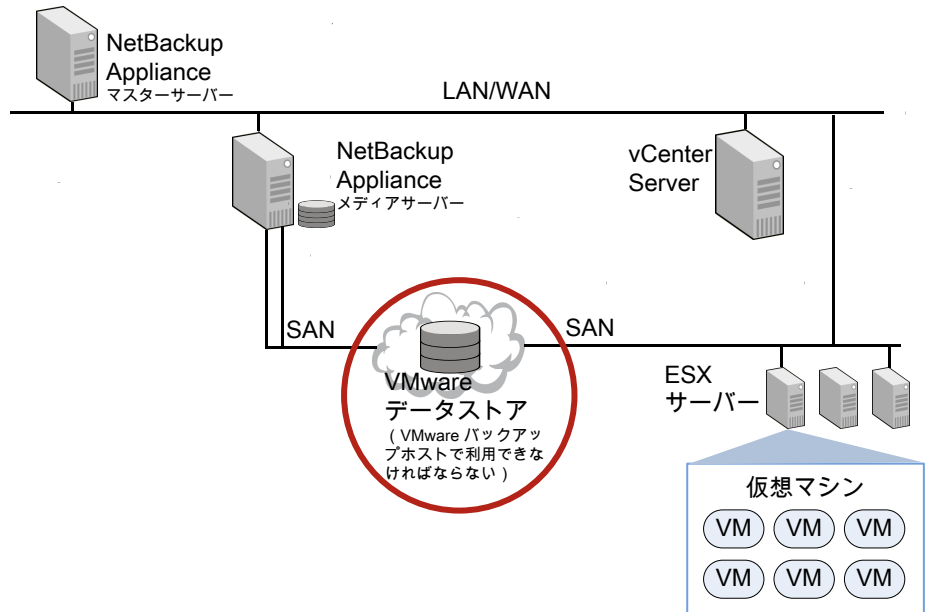
マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を一時停止します。

メディアサーバーをアップグレードする前に、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始するようにスケジュールされた可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。

VMware に関する注意事項

次のリストに、VMware に関する注意事項および既知の問題を示します。

- VMware データストアを接続した NetBackup 5330 Appliance がベリタス以外の外部 NetApp E-series ストレージデバイスの場合、外部ストレージのアクセス LUN が 5330 Appliance に公開されていないことを確認します。アクセス LUN を 5330 Appliance に公開していると、ストレージデバイスのアプライアンスハードウェアの監視やスキャンなどの一部の機能が正しく働きません。
次の図に、この問題が影響を与える環境の種類を示します。



NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup Appliance は NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティを提供します。

- 「NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)」
- 「NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)」

NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NetBackup Appliance で NBDNA ユーティリティを実行すると、次のタスクを実行できます。

- ネットワーク関連の問題を解決するために NetBackup ドメイン構成を識別する
- NetBackup パフォーマンスの問題を特定する
- ホスト名のロックアップに関する動作が機能するかどうかを確認する
- NetBackup ドメイン内での役割に基づき、NetBackup ホストとアプライアンス間の接続が確立され、機能するかどうかを確認する
- Veritasテクニカルサポートに提出するレポートを生成する

NBDNA ユーティリティで次の種類の情報を出力します。

Running audit as Media Server.

```
Collection Version: x.x
  Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
    NBU Release: NetBackup-RedHat2.6.18 7.7.1
    NBU Version: 7.7.1
  NBU Major Version: 7
  NBU Minor Version: 7
  NBU Release Update: 1
    NBU Patch Type: Release Update
  NBU GlobDB Host: "host name"
    Is GlobDB HOST? No
      UNAME:
        Hostname: sample.name.veritas.com
      Host's Platform: Linux
    Perl Architecture: Linux
```

Initialization completed in 14.040101 seconds.

Brief Description of What It Does (for type 1):

- ```

```
- 1) Perform basic self checks.
  - 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
  - 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
  - 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
  - 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
  - 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
  - 7) Perform service level tests for phase 2
  - 8) Capture data for reports; save reports.
  - 9) Save data to report files.
- ```
-----
```

Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis by extracting data from current system's configuration.

(To see more details, consider using '-verbose' switch.)

Probing Completed in 2.867581 seconds.


```
Initiating tests...
```

```
COMPLETED. Thank you for your patience.
```

```
/log/dna/sample.name.veritas.com.NBDNA.20100907.191711.zip  
Archive created successfully!  
Return /log/dna/sample.name.veritas.com.NBDNA.20100907.191711.zip  
to Veritas Support upon request.
```

NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)

nbsu ユーティリティを使うと、NetBackup とオペレーティングシステムに関する適切な診断情報を収集できます。

NBSU (NetBackup Support Utility) はユーティリティが実行されたシステムの診断情報を収集するために使われる Veritas 社のユーティリティです。デフォルトでは、NBSU はオペレーティングシステムと NetBackup 環境に基づいて適切な診断情報を収集します。

Support > NBSU コマンドを使って NBSU ユーティリティが使用する NetBackup 構成サポートファイルを作成または削除できます。

詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合は、ベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.veritas.com/support/

NetBackup Appliance 固有の情報については、[NetBackup Appliance サポートページ](#)を参照してください。

NetBackup Appliance のログファイルについて

ログファイルは、アプライアンスで発生する可能性がある問題の特定と解決に役立ちます。

NetBackup Appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連データを取得できます。ログファイルは、アプライアンス操作などの情報、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題、温度またはバッテリーに関する問題、およびその他の詳細を取得します。

表 3-1 に、アプライアンスのログファイルにアクセスするために使用できる方法を説明します。

表 3-1 ログファイルの表示

取得元	方法	ログの詳細
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup のコピーログツールが作成するログ (nbcplogs) ■ 高可用性、ハードウェア、イベントログが記録されるアプライアンスのログ ■ オペレーティングシステムのログ ■ メディアサーバー重複排除プール (MSDP) 関連のすべてのログ ■ NetBackup Appliance Web コンソール関連のすべてのログ ■ NetBackup およびオペレーティングシステムについての診断情報 ■ ハードウェアおよびストレージデバイスのログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[モニター (Monitor)]>[SDCS 監査ビュー (SCSP Audit View)]画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	アプライアンスの監査ログ
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用して、LOGROOT/> プロンプトを開きます。ls や cd のようなコマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリの操作や各種ログの取得を行えます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Appliance の構成ログ ■ Appliance のコマンドログ ■ Appliance のデバッグログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェースログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ

取得元	方法	ログの詳細
NetBackup Appliance Shell Menu	<p>Main > Support > Logs > VxLogView Module <i>ModuleName</i> コマンドを実行して、Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して、VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。</p>	<p>Appliance 統合ログ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ Storage ■ SWUpdate ■ Trace ■ FTMS ■ FTDedup ■ TaskService ■ AuthService
NetBackup Appliance Shell Menu	<p>Main > Support > DataCollect コマンドを使用して、ストレージデバイスログを収集できます。</p>	<p>Appliance ストレージデバイスログ</p>
NetBackup Java アプリケーション	<p>NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。</p>	<p>NetBackup Java アプリケーションに関するログ</p>

リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [現在のリリースの内容について](#)
- [NetBackup Appliance 3.0 の一般的なリリース内容](#)
- [NetBackup Appliance 3.0 のセキュリティリリース内容](#)

現在のリリースの内容について

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、NetBackup Appliance のこのリリースで解決された既知の問題が示されています。

メモ: この章では、NetBackup Appliance 限定の修正のみを説明します。NetBackup Appliance 3.0 リリースには、NetBackup の 8.0 に含まれるすべての修正も含まれます。NetBackup 8.0 の修正の詳細なリストについては、ベリタスのサポート Web サイトにある『NetBackup 8.0 リリースノート』を参照してください。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup ソフトウェアバージョン 8.0 は NetBackup Appliance 3.0 のリリースに付属しています。NetBackup 8.0 の新しい機能、拡張および修正については、ベリタスのサポート Web サイトの文書『NetBackup 8.0 リリースノート』に記載しています。

また、NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、Veritas のサポート Web サイトの『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』を参照してください。

www.netbackup.com/compatibility

NetBackup Appliance 3.0 の一般的なリリース内容

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。

一部の問題は特定、解決されました。EEB の形で利用可能です。次のリストでは、これらの問題は識別のための Etrack 番号を含みます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションにある解決した問題について詳しくは、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) を参照してください。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

次のリストには、解決された既知の問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

- ソフトウェアバージョン 2.7.3 以降、アプライアンスログは、SFTP を使用してベリタスのサポートサーバーにアップロードされます。
- ソフトウェアバージョン 3.0 以降、この機能を使って次を実行できます。
 - NetBackup Appliance Shell Menu と NetBackup Appliance Web Console からドメイン/ユーザー名のユーザー名形式でログオンする。
 - 新しい AD グループを作成する時に、AD グループに 1 つ以上のスペースを追加する。
- ソフトウェアバージョン 3.0 以降、15 文字を超えるホスト名を持つアプライアンスでの Active Directory (AD) 設定がサポートされるようになりました。

NetBackup Appliance 3.0 のセキュリティリリース内容

次のリストには、解決された既知のセキュリティの問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

- AD ユーザーグループからユーザーを削除した後に、グループメンバーを AD サーバーと同期するために、アプライアンスは最大 30 分必要とします。この期間に、削除されたユーザーは引き続きアプライアンスにアクセスできます。この動作は、サードパーティソフトウェアの Samba 3.5 の依存関係の制限によって発生します。
- アプライアンスのソフトウェアは、次のセキュリティ脆弱性を解決するために RHEL 6.8 カーネルにアップデートされました。
 - CVE-2015-5157
 - CVE-2015-8767
 - CVE-2010-5313

- CVE-2013-4312
- CVE-2014-7842
- CVE-2014-8134
- CVE-2015-5156
- CVE-2015-7509
- CVE-2015-8215
- CVE-2015-8324
- CVE-2015-8543
- CVE-2016-4565
- libtiff-3.9.4-18.el6_8 パッケージは、次のセキュリティ脆弱性を解決するためにアップデートされました。
 - CVE-2014-9655
 - CVE-2015-1547
 - CVE-2015-8784
 - CVE-2015-8683
 - CVE-2015-8665
 - CVE-2015-8781
 - CVE-2015-8782
 - CVE-2015-8783
 - CVE-2016-3990
 - CVE-2016-5320
 - CVE-2014-8127
 - CVE-2014-8129
 - CVE-2014-8130
 - CVE-2014-9330
 - CVE-2015-7554
 - CVE-2015-8668
 - CVE-2016-3632
 - CVE-2016-3945
 - CVE-2016-3991

- libxml2-2.7.6-21.el6_8.1 パッケージと libxml2-python-2.7.6-21.el6_8.1 パッケージは、セキュリティの脆弱性 **RHSA-2016:1292** を解決するためにアップデートされました。
- **JRE** バージョンは、次のセキュリティ脆弱性を解決するためにバージョン **1.8.0_92** にアップデートされました。
 - CVE-2016-3458
 - CVE-2016-3485
 - CVE-2016-3498
 - CVE-2016-3500
 - CVE-2016-3503
 - CVE-2016-3508
 - CVE-2016-3511
 - CVE-2016-3550
 - CVE-2016-3552
 - CVE-2016-3587
 - CVE-2016-3598
 - CVE-2016-3606
 - CVE-2016-3610
 - CVE-2016-0686
 - CVE-2016-0695
- カーネルパッケージは、次のセキュリティ脆弱性を解決するために **kernel-2.6.32-573.el6** にアップデートされました。
 - CVE-2015-5157
 - CVE-2015-8767
- openssl-1.0.1e-48.el6_8.1 パッケージと openssl-devel-1.0.1e-48.el6_8.1 パッケージは、次のセキュリティの脆弱性を解決するためにアップデートされました。
 - CVE-2016-2108
 - CVE-2016-2105
 - CVE-2016-2106
 - CVE-2016-2107
 - CVE-2016-0799

- CVE-2016-2842
- CVE-2016-2109

関連ドキュメント

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance のマニュアルについて](#)

NetBackup Appliance のマニュアルについて

次に挙げるマニュアルを参照すると、アプライアンスの正常なインストール、設定、使用に役立ちます。これらのドキュメントはすべて [NetBackup Appliance マニュアルページ](#) に投稿されます。

表 B-1 NetBackup Appliance のマニュアル

ガイド	説明
NetBackup™ Appliance ハードウェア取り付けガイド	このガイドは次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">■ アプライアンスハードウェアの物理的なレイアウトの紹介。■ 開梱の手順、環境条件、安全上の注意事項などの設置準備手順。■ ハードウェア構成手順 このセクションは、ラックにアプライアンスを設置し、アプライアンスケーブルを接続するために必要な手順について説明します。
NetBackup™ Appliance 初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web Console、または NetBackup Appliance Shell Menu の構成プロセスが記載されています。
NetBackup Appliance アップグレードガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のアップグレードに必要な手順が記載されています。

ガイド	説明
NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	『NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 配備情報 ■ アプライアンスの管理 ■ 監視情報
NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	『NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、NetBackup Appliance Shell Menuから使うことができるコマンド一覧が掲載されています。
NetBackup Appliance リリースノート	このマニュアルには、このバージョンの NetBackup Appliance に関する情報が記載されています。リリース中の新機能の簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。
NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance に関する最新のトラブルシューティング情報が記載されています。
NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。
NetBackup Appliance セキュリティガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。
NetBackup Appliance ファイバーチャネルガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のサポート対象ファイバーチャネル (FC) の機能と設定が記載されています。
NetBackup Appliance iSCSI ガイド	このマニュアルでは、NetBackup アプライアンスで iSCSI がどのように機能するかについて説明します。
NetBackup Appliance Decommissioning and Reconfiguration Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance の廃止と再構成の方法が記載されています。
NetBackup Appliance SNMP トラップリファレンスガイド	このマニュアルでは、NetBackup Appliance SNMP トラップの詳しいリストを提供します。各トラップの意味と、エラー発生時の推奨措置について説明します。
NetBackup Copilot for Oracle 初期構成ガイド	このマニュアルでは、NetBackup および NetBackup Appliance を使用して Copilot を構成する方法の概要が記載されています。

ガイド	説明
NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	<p>NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。</p> <p>このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。</p> <p>https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements</p>

アプライアンスハードウェアについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

- NetBackup 5220 Appliance と Storage Shelf 製品説明
- NetBackup 5230 Appliance と Storage Shelf 製品説明
- NetBackup 5240 Appliance と Storage Shelf 製品説明
- NetBackup 5330 Appliance と Storage Shelf 製品説明
- NetBackup 52xx と 5330 のアプライアンス、Storage Shelf の安全と保守ガイド